「お中元」に関するQ&A

Q. 「お中元」って、いつ贈ればいいの？

A. 以前は、東日本においては7月初めより中頃までの間を、西日本では1ヶ月遅れの8月初めより中頃までの間を贈答時期としていました。

現在ではいずれの地方も**7月初めより中頃まで(土用の入り前までに)の期間内**に贈ることが一般的になってきています。

※うっかり忘れて時期を逸した場合には暑中見舞い･残暑見舞いとして贈ります。

7月1日 ～ 7月18日

Q. どんな「のし紙」をかければいいの？

A. ●のし紙

紅白(赤と金色で印刷されている)の5本(又は7本)花結び(蝶結び)に熨斗が付いたデザインのものを用います。
(通称＝花結び祝い＝一般お祝い用)

●表書き

濃い色の墨を用いて楷書体で書くのが基本です。献辞(上書き)は水引中央結び目の上に「御中元」と書き、名前書きは水引中央結び目の下に献辞よりやや小さめにして「フルネーム」で書き入れます。

Q. 喪中の時はどうしたらいいの？

A. 普段お世話になっていることに対する**感謝の気持ちを贈るものであることから**当方又は先方のいずれか(又は双方)が喪中の場合であっても、お中元を贈りあうことは一向に**差し支えない**ことになっています。

忌中(仏教では忌明け法要前、神道では忌明け祭前)の場合やどうしても気になる場合は、事前にお断りを入れて先方の了解を得た上で、時期をずらして**暑中見舞い**(土用の入り以降立秋まで)や**残暑見舞い**(立秋以降)の形で贈る方法もあります。

※尚、キリスト教では教義上、喪中という考えは存在しませんので、教徒間で贈り合う限りにおいては特に問題はありません

暑中見舞い
土用
7月19･20日 ～ 8月6･7日
18日間

残暑見舞い
立秋
8月6日 又は7日 以降

Q. どんな物を贈ればいいの？

A. 何を贈るかについては案外面倒で難しいもの、ついつい贈る側の好みによっていずれの先様にも同じようなものを贈ってしまうケースが多いようですが、贈り物は自らの心が相手に伝わり**喜んで貰ってこそ本来の意味**があります。

幾ら高価なものであっても酒が飲めない人に酒類を贈っても喜んで貰えません。自分好みの**「あげたいもの」を贈るのではなく**、相手の好み･家族構成･年齢･人数･季節などを十分考慮して、予算に見合った**「喜んでいただけるもの」**を先様ごとに選ぶことを心がける必要があります。

お中元に「もらいたい商品」ベスト10

	全体	東京	大阪
1位	商品券 (43.3%)	商品券 (46.0%)	商品券 (40.7%)
2位	ビール (36.7%)	ビール (36.0%)	ビール (37.3%)
3位	産直の生鮮食料品 (27.3%)	産直の生鮮食料品 (36.0%)	洗剤 (29.3%)
4位	洗剤 (25.0%)	コーヒー (26.0%)	コーヒー (23.3%)
5位	コーヒー (24.7%)	洗剤 (20.7%)	ハム･ソーセージ (22.0%)

●地区のしきたり、宗教の違いにより、異なる場合がありますのでご注意ください。